

かまくら 女性史の会 Newsletter

第 125 号

2025 年 3 月 15 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: svokmat@yahoo.co.jp

《 国立女性教育会館（NVEC） 》

国立婦人教育会館（2001 年国立女性教育会館と改名）は埼玉県嵐山町に、1977（S52）年文部省の付属機関として設立された。高度経済成長が達成された 70 年代は、「急激な社会構造の変化に対処する社会教育はどうあるべきか」が問われた時期である。国立の社会教育施設として「青年の家」は約 10 か所あったが女性のための施設はなかった。当時自民党の中にも、建設は自民党の実績になるとの意見もあれば、女がひとところに集まったらロクなことはない活動の拠点になるなどの意見まで出たという。結果、社団法人大学婦人協会が要望を出す形で、研修・交流・情報さらに調査・研究機能の施設構想となり、71 年から 7 年の歳月をかけて埼玉県有地に完成した。

かまくら女性史の会は去る 2 月 24、25 日に 1 泊 2 日の予定で初めて会館を利用した。10 ヘクタール余りの自然豊かな敷地内に本館・宿泊棟・研修棟・実技研修棟・体育施設・日本家屋茶室もあり、その壮大さに行き届いた手入れに驚いた。2 日目に女性教育情報センターを訪問し、職員の森未知さんの丁寧な案内を受けた。図書館書棚に『かまくらの女性史』4 冊、ミニコミ誌棚に「かまくら女性史の会 Newsletter」のファイルを見つけたときは素直に嬉しかった。アーカイブセンターも充実し、女性関係の収集資料は約 73 万点、特に 60 紙に及ぶ新聞記事から日々のインデックス作成作業と蓄積は珠玉である。

初代館長は縫田暉子であった。自著によると準備期間には全く関わったことがなかった自分が依頼されたときは外部の反発もあり相当迷い、市川房枝に相談もしたとある。縫田はNHK職員として婦人番組を担当していたことから、1971 年に美濃部都政の民生局長に就任した。翌年婦人会館計画が発表されたが縫田の在任中に実現せず、その後市川房枝や鍛冶千鶴子らの強い要望で、79 年に「東京都女性情報センター」が日比谷図書館の中に設けられた。縫田が初代館長を引受けるに際し、誰でも利用できる開かれた施設であること、特に情報機能は図書蒐集と整備公開だけでなく女性のための情報センターを掲げ、5 年間務めた。

会館はこの 3 月末を以て宿泊・レストランを閉鎖し、女性教育情報センターなど一部を除き 26 年 3 月に他の施設も閉鎖が決まった。施設のハード中心から研修などソフト面の機能強化に集約するための改変で、主管府省が文科省から内閣府へ移管されるそうだ。軸足が移り教育面より政治的側面が強まるのだろうか、注視していきたい。ともあれ女性教育情報センターと女性アーカイブセンターが移転解体されずに残る事は希望だ。世界 146 カ国中 118 位の日本のジェンダー問題の拠点としても力強く役割を果たしてほしい。

1982 年 11 月に江の島に開館した神奈川県立婦人総合センターは建物の老朽化を理由に 2013 年 9 月に藤沢合同庁舎へ規模を縮小して移転し、約 10 万冊の蔵書は一部破棄されて図書館機能は県立図書館に移転したが、図書館の新築に伴いさらに大量に処分された。繰り返してはならない。